

国際会計論 Exercise

Chapter 16: 企業結合の会計

* 解答はすべて解答用紙に記述してください。

問1 企業結合の処理方法である取得法の意味および手続きについて、250 文字程度で説明しなさい。

問2 取得法と持分プーリング法では、企業結合後の財務情報に、どのような違いが生じるかに
ついて、300 文字程度で説明しなさい。

問3 A 社は、X1 年度末に、B 社に対して新たに A 社株式を 1,000 株交付し、B 社を合併した。
A 社の株式の 1 株当たりの公正価値は 180 千円であった。なお、A 社は 1 株当たり 120 千円
を資本金として、残りを資本剰余金（合併差益）とする。パーチェス法を用いて処理し、X1
年度末の企業結合後の財政状態計算書を作成しなさい。

X1年度末のA社およびB社の財政状態計算書は、下記の【資料】のとおりである。B社の企
業結合日における売掛金および土地の公正価値が、それぞれ58,000千円と56,000千円であ
り、それ以外の資産および負債の公正価値は、帳簿価額に一致している。会計期間は1年、
決算日は12月31日とする。

【資料】

財政状態計算書

(単位: 千円)

	P社 資産	S社 資産		P社 負債及び持分	S社 負債及び持分
現金	56,000	72,000	買掛金	161,000	66,000
預金	112,000	60,000	借入金	140,000	84,000
売掛金	84,000	42,000	資本金	210,000	120,000
貸付金	126,000	84,000	利益剰余金	7,000	36,000
建物	140,000	48,000			
土地					
	518,000	306,000		518,000	306,000

問4 P 社（取得企業）は、S 社（被取得企業）の株式を X1 年度末、X2 年度末および X3 年度末
の 3 期間にわたり段階取得し、X3 年度末に支配を獲得した。X3 年度末における S 社株式取
得時および企業結合時における投資と持分（資本）の相殺消去仕訳を示しなさい。

各期末における S 社の持分の合計金額、P 社の S 社株式の取得原価、取得割合および支配
獲得時における S 社株式の公正価値は、下記の【資料】のとおりである。X1 年度末および X2
年度末では、S 社株式に時価の変動はないものとする。会計期間は 1 年、決算日は 12 月 31

日とする。

【資料】

(単位：千円)

取得日	S社株式取得日のS社の持分勘定			S社株式の 取得原価	P社のS社株 式取得割合	企業結合日 の公正価値
	資本金	利益剰余金	合計			
取得日	a	b	c=a+b	d	e	f
X1年度末	120,000	36,000	156,000	9,600	5%	12,000
X2年度末	120,000	60,000	180,000	19,200	10%	24,000
X3年度末	120,000	96,000	216,000	204,000	85%	204,000
合計	—	—	—	232,800	100%	240,000

国際会計論 Exercise 解答用紙

Chapter 16	ID Number	Name	Grade
企業結合の会計			

問 1

--

問 2

--

問 3

合併仕訳

(単位：千円)

日付	借方	金額	貸方	金額

(合併後) 財政状態計算書

(単位：千円)			
	資産		負債及び持分
現金預金		買掛金	
売掛金		借入金	
貸付金		資本金	
建物		資本剰余金	
土地		利益剰余金	
()			

問 4

S 社株式取得時

(単位：千円)

日付	借方	金額	貸方	金額

企業結合時

(単位：千円)

日付	借方	金額	貸方	金額